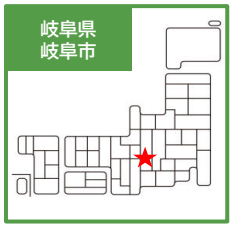
58 株式会社　JAぎふはっぴいまるけ（岐阜県岐阜市）

2024優秀賞

JAぎふの特例子会社として、荒廃農地での農業再生に向けた取組、 ユニバーサル体験農園の実施、地域の企業と連携した特産品の開発などで地域に貢献。

特例子会社



基本情報

設立：R2年/農福連携取組開始：R2年

概要

主力商品

（農作物）にら、まくわうり、じゃがいも、さつまいも、さといも、米等

（加工品）冷凍いちご、まめなかな味噌、ﾊｲﾋﾞｽｶｽﾃｨｰ、岐阜ずんだ大福

特徴的な取組

スマート農業、ユニバーサル農園

体制図

はっぴいまるけ ← 連携 ・有機の里構想（有機農業の拠点）・ハウス再生

- **取組**
  - ・オフィスでできる農業
  - ・LED人工照明による苗製造
  - ・本店駐車場空き地にて農業
- **加工品**
  - ・ずんだ大福（養老軒と連携）
  - ・まめなかな味噌
  - ・冷凍イチゴ　等
- **実践**
  - ・ユニバーサル体験農園（まるけふぁ～む、JAぎふ真正支）
  - ・まくわうり作付け（岐阜農林高校と連携）
- **放棄地対策・遊休地利用**
  - ・農家、組合員の草刈り等
  - ・1haの利用権設定の田畑の耕作
  - ・有機農業の実践

080-4052-7604 / 68002@jagifu.gjadc.jp

http://happymaruke.jp/index.html

きっかけ

R2年

JAぎふの経営理念である「すべては組合員と共に」を基に、特例子会社を設立。荒廃農地を活用し、1haの農地で農作物を栽培するほか、地域が抱える様々な問題を解決するべく活動。

取組

人を耕す

- 雇用する障害者18名は、農作物の栽培、えだまめ選果場、産直市場等で勤務。個性を発揮できるような人材配置と、定期面談の実施等により雇用の安定を実現。
- 金融事業も行うJAの子会社である特性を活かし、社員の資産管理等の相談を受ける。社員農業研修や各種資格取得の奨励も行い、働きたくなる職場づくりを実践。

地域を耕す

- JAぎふ女性部から「まめなかな味噌」加工事業を引き継いだほか、地域の伝統野菜である「まくわうり」の生産や荒廃農地の除草作業の請負等、地域農業の維持に貢献。
- 障害者の社員が栽培指導するユニバーサル体験農園「まるけふぁーむ」の実施や、特別支援学校から実習生の受入れ等、精力的に農福連携を推進。

未来を耕す

- JAぎふ及びぎふ農福連携推進センターと連携し、自社の岐阜県農業ジョブコーチが、農家と福祉事業所のマッチングを支援するほか、岐阜刑務所と連携し、受刑者に対する農業指導も実施。
- 冷凍いちごや味噌、ハイビスカスティーなど、地域の農産物を活用して6次化商品を開発。

成果

障害者の平均賃金月額	売上高	農地面積	荒廃農地の除草作業請負
115,930円(R2) →152,582円(R5)	1,980万円(R2) →5,450万円(R5)	0.5ha(R2) →1ha(R5)	1件(R2) →3件(R5)

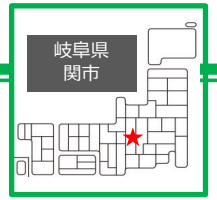
- 雇用した障害者の中には、プレイングマネージャーに昇格した後、社会福祉士の資格を取得し、一般企業へ就職した事例もある。
- JAぎふから県の産品であるえだまめの規格外品のむき身作業を請け負うほか、そのえだまめを用いて、企業間連携により「岐阜ずんだ大福」を開発。
- 地域の伝統野菜である「まくわうり」の原種苗を岐阜農林高校から譲り受けて栽培し、岐阜農林高校で加工した「まくわうりアイス」を皇室に献上。

視察受入れ：可 / 報道機関受入れ：可

更新年度：R7.1

59 株式会社ＤＡＩ（でいえいあい） 就労継続支援A・B型それいゆ

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可



福祉事業所として、さといも生産者の組合に加入し、岐阜県特産品の「円空さといも」を生産。また、組合員から手間のかかる調製作業を請け負うことで、組合員１戸当たりの栽培面積の増加に貢献。

基本情報

- 所在地：岐阜県関市
- 団体名：株式会社ＤＡＩ
- 選定表彰：ノウフク・アワード2022 優秀賞
- 主力商品：円空さといも、黒にんにく、美濃蜜芋（干し芋、焼き芋）
- 取得認証等：ノウフクJAS

円空さといも

取組の概要

○　約１haの農地において、にんにく、さつまいも、たまねぎなどを生産。にんにくは黒にんにくに加工するほか、さつまいもは干し芋や焼き芋に加工するなど６次産業化の取組を実施。

○　さといも生産者の組合員から岐阜県特産品の「円空さといも」の収穫作業、毛羽取り、選別作業を請け負う。

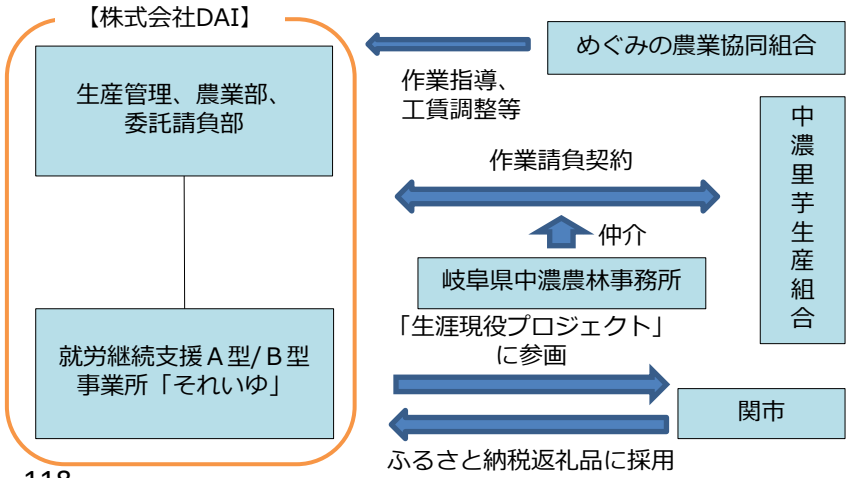
○　市内の農業者から借り受けたほ場30ａで、自社でも円空さといもを栽培。

円空さといもの収穫作業

施設外就労（調製作業）

作業を委託した農家の方々と

体制図



取組の成果

○　岐阜県特産品「円空さといも」の調製作業を請け負うことで、組合員の経営に余裕が生まれ、組合員１戸当たりの栽培面積が15ａから20ａに増加。

○　丁寧な作業により信頼を得たことで、農地を借りてほしいという依頼が増加し、栽培面積を拡大したことで農産物全体の売上高（加工品を含む）は平成27年の337万円から、令和３年には861万円に増加。

○岐阜県の就労継続支援A型事業所の平均（令和４年：81,581円）を上回る月10万円以上の賃金を支給される利用者もいる。

所在地▶岐阜県関市平和通3丁目12番地
連絡先▶ＴEL：0575-23-1101　E-mail：dai-farm.non@biscuit.ocn.ne.jp
ウェブサイト▶https://www.dai2011.com

【取組のプロセス】

きっかけ

平成23年に愛知県犬山市に株式会社DAIファーム（現：株式会社DAI）を設立し、個人農家と連携して、いちごや菌床椎茸の栽培を実施

平成23年

利用者の賃金確保のため、野菜を作るだけの農業から移行する必要

平成26年

年間を通して安定した作業を確保する必要

社名を株式会社DAIに変更

○ 平成26年４月、社名を株式会社DAIに変更。

○ 「地域の景観を守る」、「地域の特産品を創生する」、「地域の特産品を守る」という目標を掲げる。

平成28年

ＪＡめぐみの、岐阜県中濃農林事務所等の支援

地域の課題解決に共に取り組む

「地域の特産品を守る」

○ 岐阜県関市に事業所を開設するとともに、就労継続支援Ａ型事業所を開設。

○ ＪＡめぐみの、岐阜県中濃農林事務所、中濃里芋生産組合と連携し、地域の特産品「円空さといも」の毛羽取り作業を請け負う。

○ 手間のかかる作業を引き受けることで、生産者は栽培面積を拡大することが可能となり、収穫量が減少していた円空さといもの栽培面積が増加。

○ 自社でも30ａのほ場を借り受け、円空さといもの栽培を始める。

施設外就労（ゆずの収穫）

平成29年

持続可能な地域づくりに参画

「地域の景観を守る」、「地域の特産品を創生する」

○ 就労継続支援Ｂ型事業所を開設。

○ 当初は荒廃農地を再生して野菜を栽培していたが、近隣農家が耕作しなくなった農地を借りることで自社の耕作面積が増加（令和３年度末現在、約１ha）。

○ 自社で栽培したにんにくやさつまいもなどを加工して販売。また、にんにく加工商品が関市のふるさと納税の返礼品に採用される。

関市「生涯現役プロジェクト」への参画

（さつまいもの収穫）

今後の展望

・令和２年に古くなったさといもの毛羽取り機を新調
・１日あたりの作業量をＵＰし、毎年増える依頼にも対応
・令和３年現在、７件の農家からの作業依頼に対応

「農福連携」からはじまる「地福連携」の形を創る

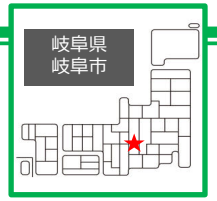
○ 地域の企業や農家、JA、農林事務所、行政と一体となって課題に取り組むことで、仕事を作り、安心して永く住み続けることのできる地域を創る。

○ 地域の担い手として活躍できる機会を拡大し、土と、人と、地域と、仕事と、分断された結びつきを「福祉」を通して再生し、暮らしと経済づくりを支えていく。

更新年度:R5

60 株式会社ＬＳふぁーむ

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可



障害者の自立支援と雇用創出を目的に農業参入。荒廃農地の再生による耕作面積の拡大と労働力確保による新作物の栽培等を実現。新商品を開発し、地域イベントへ出店・販売することで生産や販売意欲が向上。

基本情報

- 所在地：岐阜県岐阜市
- 団体名：株式会社LSふぁーむ
- 選定表彰：ノウフク・アワード2023 優秀賞
- 主力商品：葉物野菜（サンチュ、ベビーリーフ等）、ヌマダイコン、米、玄米加工品、野菜加工品
- 取得認証等：総合化事業計画認定、JGAP取得

主力商品のベビーリーフ

農福のほ場で栽培した野菜を使用した餃子

取組の概要

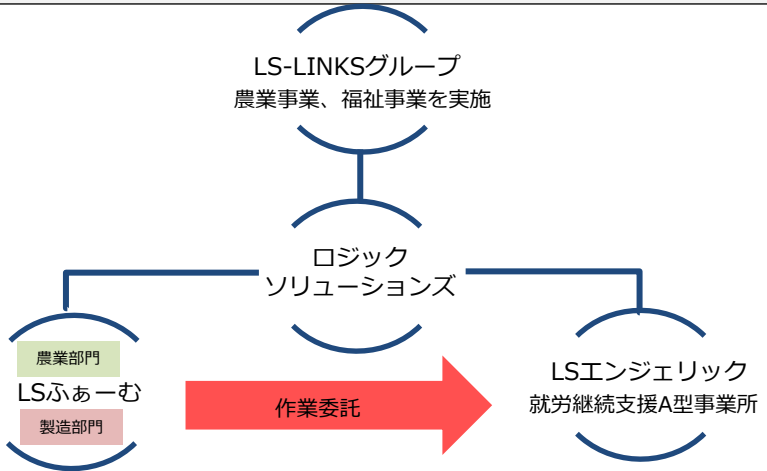
○機械設計業、人材育成業を営む企業の農業部門として農業参入。グループ内の就労継続支援A型事業所に農作業を委託。
○農業や６次産業化製品の製造などの各作業ごとに障害者の中からリーダーを任命。商品開発にも障害者が従事。
○障害者が働きやすいように、柱やパイプの無いエアドーム式ハウスを平成27年に開発。
○労働力を確保できたことにより、荒廃農地で葉物野菜、絶滅危惧種の「ヌマダイコン」や特別栽培米の栽培を実現。
○地域の特別支援学校と農業体験できる機会を設けて農業振興を発信し、農業を通じて地域交流を行う。

ハウスでの作業風景

絶滅危惧種のヌマダイコン（ハーブ）

障害者が加工施設で製造した玄米だんご

体制図



取組の成果

○平均賃金月額は平成23年の約67,000円から令和５年の約80,000円へ増加。
○農地面積は平成23年の20haから令和５年の42haと２倍以上に増加。
○農業や販売に携わる中で地域住民と交流する機会が増え、生産や販売意欲の向上につながり、これまでにグループ内の就労継続支援A型事業所から６名が一般就労に移行。
○取組の輪が広がり、隣県の障害者が生産した農産物とコラボした商品を開発。

所在地▶岐阜県岐阜市薮田南1-11-9
連絡先▶TEL:058-213-0711　E-mail:ogawa@ls-farm.com
ウェブサイト▶http://www.ls-farm.com/

【取組のプロセス】

平成22年

(株)ロジックソリューションズの農業部門として設立
平成22年に法人格を取得

平成24年

6次産業化推進整備事業（農林水産省）の活用

令和元年

エアドーム式ハウスを開発

絶滅危惧種ヌマダイコンの栽培スタート

令和4年

農福連携推進活動緊急対策事業（岐阜県）の活用

ハツシモの特別栽培開始

今後の展望

きっかけ　**障害者のための自立支援と雇用創出の場として、また労働力不足の解決策としてスタート。**

農業生産及び6次産業化における農福連携を開始

○ 個人のスキルや個性に適した仕事を与え、作業毎にリーダーを任命することで仕事に対する責任感とやりがいが向上。

○ 製造方法を記載した手順書の作成や、一目でわかるように資材置き場にガイドをつけることで、誰でも作業を行うことができるように工夫。

○ 平成25年６次産業化推進整備事業を活用し、農産物加工施設を整備。玄米だんごの増産設備が整い、障害者と連携して製造開始。

６次産業化推進整備事業で整備した加工施設

エアドーム式農業ハウスの開発

○ 平成27年に「エアドーム組立式技術特許」を取得。エアーで膨らませるハウスであり、柱やパイプが存在しないため、怪我のリスクを軽減。

○ 夏場のハウス作業は冷風扇やミストを設置し、熱中症対策を講じている。

エアドーム式農業ハウス

農福連携推進事業の活用

○ 絶滅危惧種である「ヌマダイコン」を守るため、栽培保護・栽培技術を確立。また、岐阜県の令和４年度農福連携推進活動緊急対策事業において、ヌマダイコンを加工するための機械類を導入し、新商品を開発。

障害者と一緒に販売会を行ったときの様子

全ての人が分け隔てなく働き、持続可能な社会へ貢献する

○ 地域の祭りやイベントに積極的に参加することで、障害をもった人に対する理解を地域に広める。

○ 地域の農地保護のために契約農地の拡大を行い、同時に障害者の雇用を拡大する。

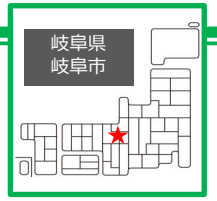
○ ノウフクJASやぎふ清流GAPの取得による販路拡大に取り組み、障害者の賃金向上につなげる。

食育活動

更新年度：R5

61 全国農業協同組合連合会岐阜県本部

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可



農業分野で障害者が活躍できる場の創出を目指し、直接雇用型の農福連携事業に取り組むことで、障害者のいちご栽培技能及びコミュニケーション能力を高める。

基本情報

- 所在地：岐阜県岐阜市
- 団体名：全国農業協同組合連合会
  岐阜県本部
- 選定表彰：ノウフク・アワード2023
  フレッシュ賞
- 主力商品：いちご（品種：美濃娘）
- 取得認証等：－

収穫の様子

美濃娘

取組の概要

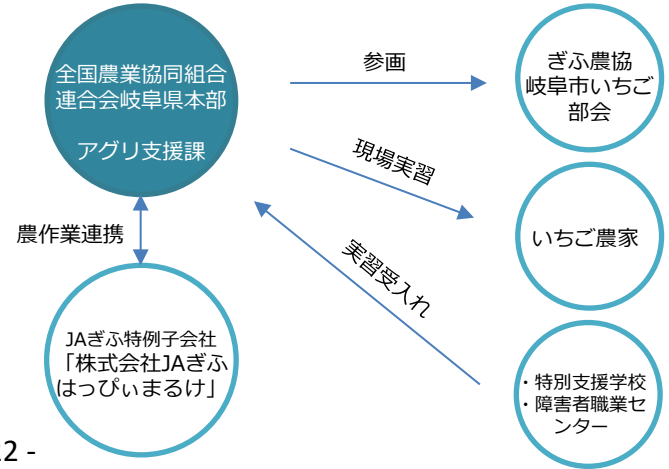
○通年でいちご栽培に従事する障害者を直接雇用。いちごは岐阜県ブランドいちご「美濃娘」を栽培し、地産地消の取組に貢献。
○参画しているぎふ農協岐阜市いちご部会の基準に基づいた栽培・防除・収穫・パック詰めを行い、部会員と同一基準で出荷を実現。
○連携先のいちご農家で農作業実習を行い、人材育成と農家への農福連携を促進。
○株式会社JAぎふはっぴぃまるけと連携し、相互に農作業体験実習を実施。
○特別支援学校や障害者職業センターの実習生を受け入れ、いちご収穫体験を実施。

親株の定植作業

パック詰め作業

「はっぴぃまるけ」との連携活動

体制図



取組の成果

○栽培の知識・技術向上に伴い、栽培面積が５a（令和３年）から10a（令和４年）と、２倍に増加。
○市場出荷パック数が約6,000パック（令和３年）から14,600パック（令和４年）と、２倍以上に増加。
○農作業実習では普段と異なる環境下で作業を行うことで、自立支援と雇用創出に繋げた。また、受け入れ先の農家からも農福連携に対して前向きな意見が得られた。

所在地▶岐阜県岐阜市宇佐南4丁目13番1号
連絡先▶TEL:058-214-2431　E-mail: zz_gf_agurishien@zennoh.or.jp
ウェブサイト▶https://www.zennoh.or.jp/gf/einou/noufuku.html

【取組のプロセス】

令和3年

アグリ支援課
新設

障害者雇用に向けた環境や受入体制の構築

令和4年

ジョブコーチ支援
実施

はっぴぃまるけと連携農作業開始

令和5年

大手量販店で
農福連携特設コーナーを設置

外部農作業実習

今後の展望

きっかけ　**少子高齢化による農業分野の人手不足の解消と、SDGｓの理念実現を目指し、取組を開始**

障害者雇用に向けた体制づくり

○ 管理者・職場適応援助者の支援スキル向上に向けて、厚生労働省認定の「企業在籍型職場適応援助者養成講習」や県認定の「岐阜県農業ジョブコーチ」育成講習を受講。

作業の見える化

○ 日々の作業をホワイトボードに記入して、作業者に説明。

○ 判断や精度がばらつきやすい作業（防除・芽かき等）も安心して取り組めるよう、作業確認のため一人ずつ作業動画を撮影し、口頭では伝わりにくい留意点を確認。

栽培スキルの向上

○ いちご農家で農作業実習を実施し、栽培管理、収穫方法、効率的なパック詰め手法などを学習。

体調管理・メンタルケア

○ 定期的に個別面談やメンタルミーティングを開き、精神状態の確認とケアを行い、安定就業に繋げている。

農福連携の普及活動

○ 障害者が集荷所へいちごを持ち込み、他の農家と日常的に交流することで、農福連携への理解醸成に取り組む。

○ 大手量販店に農福連携特設コーナーを設置し、商品販売することで農福連携をPR。

農家、雇用主の理解醸成と関係機関との連携

○ 障害者雇用の理解促進を図るため、外部と交流する機会を増やす。

○ いちご農家での作業実習を通じて、障害者のいちご栽培技能・知識向上やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、農家に障害者雇用の選択肢を広げていく。

○ 県と連携した農福体験ツアーや大学との連携による収穫作業体験などの機会を作り、農福連携の取組を広める。

全員で作業動画を確認

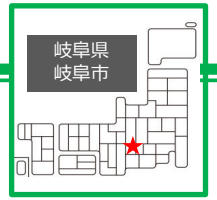
いちごを農家訪問し、効率的なパック詰め手法を学ぶ

量販店に農福連携特設コーナーを設置し、商品販売

更新年度：R5

62 一般社団法人 岐阜県農畜産公社「ぎふアグリチャレンジ支援センター」

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可



地域における障害者等の就労、担い手の確保や地域農業の維持のため、農業者と福祉施設の双方に対し、総合的な支援を実施する岐阜県のワンストップ窓口を担う。

基本情報

- 所在地：岐阜県岐阜市
- 団体名：一般社団法人 岐阜県農畜産公社「ぎふアグリチャレンジ支援センター」
- 選定表彰：ー

○ 岐阜県の農福連携ワンストップ窓口
○ 農業経営体と福祉事業所との農作業受委託をマッチング
○ 岐阜県、農林事務所、社会福祉協議会等と連携し、農福連携の総合的な支援を実施
○「農福連携推進マニュアル」には、障害者受け入れのポイントや農作業の切り出し、障害者が作業する際の留意点などをわかりやすく図解

取組の概要

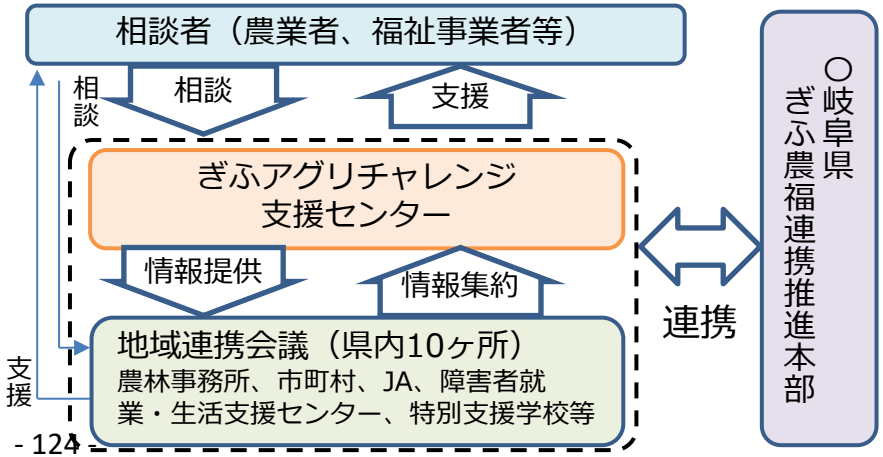
① 農福連携コーディネーターが、農業者や福祉事業所を個別訪問し、農作業に関する請負契約の締結をマッチング。
② 農福連携の現場に農作業指導者を派遣し、円滑な実施を支援。
③ 障害者の受入体験を行う農業者に対し、請負報酬又は賃金相当額を助成。
④ 障害者を受け入れている農業者及び農業参入した福祉事業所に対し、作業環境の整備に関する費用を助成。
⑤ Webサイトに、「農福連携推進マニュアル」、「ノウフク商品カタログ」を掲載。

ぎふノウフク商品カタログ

作業請負（さといも収穫）

作業請負（除草）

体制図



取組の成果（令和４年度の結果）

①相談業務　　相談件数 106件、訪問件数 20件
②マッチング　　農作業に関する請負契約の締結 23件
③農作業指導者の派遣　障害者農業就労支援サポーター登録者 ４名、岐阜県農業ジョブコーチ登録者
（令和２年：10名、令和３年：９名、令和４年：12名）
④農業者への助成　　活用 ５件（受入体験１件、作業環境整備２件、農業参入施設整備２件）
⑤農業大学校において、障害福祉サービス事業所の職業指導員等に対する栽培技術の指導を実施。

所在地▶岐阜市薮田南５丁目14番12号（岐阜県シンクタンク庁舎内）
連絡先▶TEL:058-215-1503　E-mail:agri-stock@gifu-notiku.com
ウェブサイト▶http://www.gifu-notiku.com/

【取組のプロセス】

きっかけ　平成26年度頃から、岐阜県が農福連携を推進

平成26年

地元での農業参入、農業法人の育成、農福連携など、幅広い分野での多岐にわたる要望に一元的に対応する窓口の必要性

「ぎふアグリチャレンジ支援センター」を設置

○ 就農相談から研修、営農定着までの新規就農者のサポートに加え、移住就農や企業の農業参入を支援する総合支援窓口として設立。

○ 就農にかかる農地情報の提供等就農へのアドバイス、資金面の相談や企業の農業参入、農業法人の育成、農福連携など、幅広い分野での多岐にわたる要望に一元的に対応する。

平成29年

平成29年４月に、岐阜県の外郭団体である一般社団法人 岐阜県農畜産公社内に、「ぎふアグリチャレンジ支援センター」を設置

農福連携のワンストップ窓口として「農福連携推進室」を設置

○ 農福連携パンフレット、農福連携推進マニュアル、農福連携事例集などを公表。

○ 農作業受委託をマッチング。　○農福連携推進活動事業(助成事業)。

○ 障害者農業就労支援サポーターの派遣。

平成30年

平成30年４月に、同センター内に、農福連携のワンストップ窓口として「農福連携推進室」を設置

よりきめ細かい推進体制の整備

○ 令和２年８月に、農福連携に取り組む農業者等を現場で支援する「岐阜県農業ジョブコーチ」を養成する研修会を開催、派遣事業を創設。

○ 令和２年４～11月にかけて、よりきめ細やかな推進体制づくりとして、農林事務所ごとに行政、支援機関、教育機関を構成員とする農福連携地域連携会議を設置。

令和2年

・農福に関する相談
・マッチング
・マニュアル公表
・サポーターの派遣
・障害者受入体験等の助成などを実施

部局横断的に施策を推進

○ 令和４年４月に、農業や福祉、教育関係者等が共通認識のもと、横断的かつ計画的に各施策を推進するため、「ぎふ農福連携アクションプラン」を策定。

○ 令和４年９月に、知事を本部長として、両副知事、庁内部局長等から構成する推進本部を設置。

令和4年

YouTubeに「のうふくチャンネルぎふ」を開設
・ＰＲ動画「ノウフクが農業と福祉の未来をつくる」
・農作業動画「グリーンねぎの調製」、「にんにくの根切り」
などを公開

今後の展望

さらなる農福連携の推進と理解の醸成

○ 農福連携に取り組むための環境整備や農産物のブランド力向上・販路拡大へのサポートによるロールモデルづくりと県内外への情報発信。

○ 高齢化や担い手不足といった課題を抱える農業・農村において、多様な担い手の一員として誰もが活躍できる地域共生社会の実現。

作業請負（クリの青イガ拾い）

雇用（搾乳）

作業請負（ハウスの片づけ）

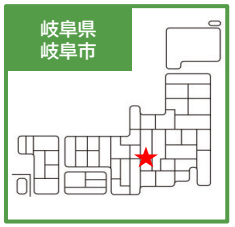
更新年度:R5

63 岐阜県立岐阜本巣特別支援学校（岐阜県岐阜市）

2024フレッシュ賞

農業地域にある特別支援学校として、農福連携の取組を開始。生徒が主体となり、遊休農地等を活用し、生徒が栽培しやすい特色のある「ルビー色の蕎麦」や「イタリア野菜」を生産。

特別支援学校



基本情報

設立：H20年/農福連携取組開始：R4年

概要

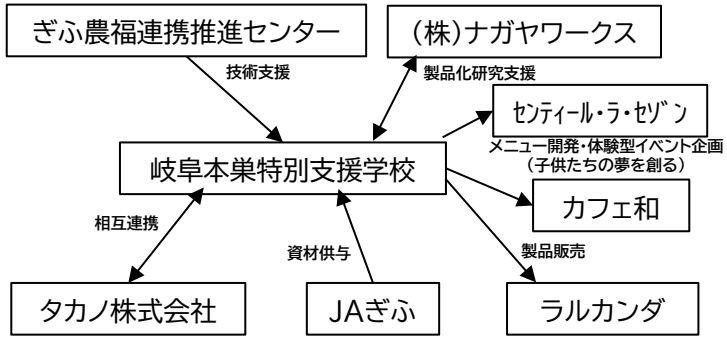
主力商品

（農作物）そば、イタリア野菜

特徴的な取組

スマート農業

体制図



058-239-9712 /p33616@gifu-net.ed.jp

https://school.gifu-net.ed.jp/wordpress/gifumotosu-sns/

きっかけ

R4年

障害を持つ生徒の個性を十分に発揮した農福連携の取組に向けて、岐阜県農福連携推進センターに支援を受けながら、生徒主体の農福連携をスタート。

取組

人を耕す

- 「～恋する蕎麦～初霜ルビー」を製品化。霜が降りる時期までじっくり完熟させ、ポロっと落ちるそばの実を丁寧に手刈りをすることで、多くの障害者が関わることが可能。
- 高付加価値の農産物「イタリア野菜」の生産・販売を通して、子ども達の自信と責任感を創出。

地域を耕す

- 「イタリア野菜」栽培により地域との連携を深めており、本場と同じ懐かしい野菜として県内在住のイタリア人シェフが絶賛し、学校の野菜を使った料理を提供。
- 岐阜古来の製麺技術を採用したことによる「道三めん」のPRや「イタリア野菜」栽培の発信等、地域活性化に貢献。

未来を耕す

- 農業の栽培用アプリ「アグリハブ」を使った、遊休農地等でのルビー色のそば及び「イタリア野菜」の栽培は大きな話題に。
- 種子の提供を受けるなど、県外の企業がサポート。

成果

農産物売上	農地面積	連携団体数	マスコミ情報発信
14.6万円(R4) →15.3万円(R5)	4a(R4) →6a(R5)	0件(R4) →4件(R5)	0件(R4) →6件(R5)

- そば及び「イタリア野菜」栽培を通して、障害を持つ子ども達の笑顔がこぼれる素敵な農業時間を創出。
- 一面のルビー色のそば畑は、誰もが足を止める「映えスポット」として話題になり、地域活性化に貢献。
- オンリーワンのストーリーを持つルビー色のそば栽培や、珍しい「イタリア野菜」栽培を通して、子ども達が主体的に農業を行い、地域の新しい担い手として活躍。

視察受入れ：可 / 報道機関受入れ：可

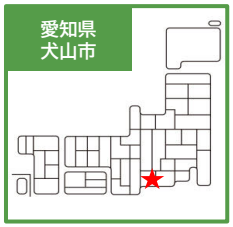
更新年度：R7.1

64 株式会社　ココトモファーム（愛知県犬山市）

2024準グランプリ（地域）

米の生産・加工・販売を一貫して行うとともに、地域内外の企業や障害者就労施設等と連携したバウムクーヘンの開発・販売等を通じて、誰ひとり取り残さない居場所を創出。

農業経営体



基本情報

設立：R元年/農福連携取組開始：R元年

取得認証等：認定農業者

概要

主力商品

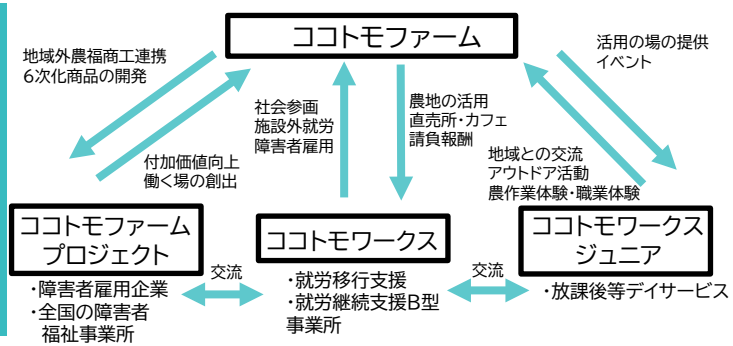
（農作物）米

（加工品）米粉バウムクーヘン

特徴的な取組

スマート農業

体制図



0568-54-4717 /soumu@cocotomo-farm.jp

https://www.cocotomo-farm.jp/

きっかけ

R元年

IT企業を経営し、全国の障害児通所施設を顧客に持つ代表が、農福連携推進フォーラムに参加したことをきっかけに、農福連携を知り、農福連携に取り組む農業法人を設立。

取組

人を耕す

- 米の生産・加工・販売、バウムクーヘンの加工・販売等を通じて、45名（R5年度）の障害者の働く場を創出。
- 社内に職場適応援助者養成研修受講者2名、精神・発達障害者しごとサポーター養成講座受講者1名を配置し、個々の障害者の能力や適性に応じた作業選定等を実施。

地域を耕す

- 農福連携を通じて地域の農家との交流が深まり、地域の要望に応える形で荒廃農地を再生し、農地面積を拡大。
- 犬山市の農業委員や愛知県農村生活アドバイザーとして地域農業の発展に貢献。

未来を耕す

- ドローンによるほ場管理や肥料散布を実施。子ども向けの自動走行田植え機の試乗イベントの開催等、スマート農業を体験できる取組を実施。
- 持続可能な農業の形を実現する4社合同プロジェクトとして、マイナビ農業、ノウタス、アグベル（ぶどう農家）、ココトモファームで商品開発を行い、全国に発信。

成果

障害者の平均賃金月額	障害者雇用数（直接雇用）	売上高	農地面積
180千円（R2） →210千円（R5） ※正社員のみ	2人（R2） →11人（R5） ※正社員及びアルバイト	32,802千円（R2） →426,575千円（R5）	8.2ha（R2） →8.7ha（R5）

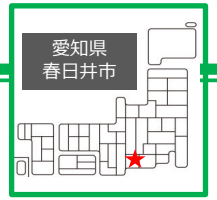
- 施設外就労で受け入れていた障害者のうち、2名を正社員として雇用。
- 直売所やカフェの来店者は年間約22.7万人（R5年度）。海外からの訪問客も増加。
- 農福連携や6次産業化の取組の見学を多数受入れ（R5年度は120組）。韓国からの農業研修の受入れも実施。
- 全国の福祉施設等へ講演会を実施（R5は40回）。
- 岐阜県の企業と6次化商品を開発し、累計5,300個販売。

視察受入れ：可 / 報道機関受入れ：可

更新年度：R7.1

65 有限会社 Ｈ＆Ｌプランテーション

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可



農業法人として花き鉢物の生産を通年で実施しており、精神障害者１名をパート社員として雇用するほか、近隣の障害福祉サービス事業所から、知的・精神障害者、生活保護受給者など数名の受入を実施。

基本情報

- 所在地：愛知県春日井市
- 団体名：(有)Ｈ＆Ｌプランテーション
- 選定表彰：中日農業賞　中日賞
- 主力商品：植物苗
  （ハーブ・花・野菜・多肉植物など）
- 取得認証等：ー

取組の概要

○ 農地１haで、ハーブ、花、多肉食物、野菜等の苗を生産し、自ら販売も実施。
○ 障害者を農場の貴重な人材として直接雇用。
○ 農福連携の技術指導者「アグリジョブコーチ」(愛知県認定)がほ場で指導を行うことで、円滑な作業を実現。
○ 法人の代表取締役は、日本園芸福祉普及協会の認定資格である園芸福祉士を取得するなど、障害者の受け入れに熱心に取り組む。

花苗の移動作業

花苗の施肥作業

体制図

(有)Ｈ＆Ｌプランテーション

アグリジョブコーチ

園芸福祉士

スタッフ

・植物苗生産
・農園作業

障害者

・園芸福祉
・地域活動

↕ 情報共有

障害者の所属していた就労移行支援事業所

↕ 連携

NPO法人花と緑と健康のまちづくりフォーラム

取組の成果

○ 花き鉢物の生産に携わる作業を委託することで、年間を通した受け入れを体制を実現するとともに、精神障害者１名をパート社員として雇用。
○ 障害者の所属していた就労移行支援事業所と連絡を密にし、障害者への接し方の留意点を把握することで、ケガや病気の防止につながり、良い労働環境を実現。
○ 地域のNPO法人と連携し、動物園や植物園の花壇の植栽作業や花材提供等を年３回行い、障害者の作業による成果を地域に発信している。

所在地▶愛知県春日井市明知町794番地
連絡先▶TEL:0568-88-0858　E-mail:kasugai@h-and-l.co.jp
ウェブサイト▶http://www.h-and-l.co.jp/index.html

【取組のプロセス】

きっかけ

植物や園芸・農芸作業を活かした健康・福祉・環境・まちづくりを行う「NPO法人花と緑と健康のまちづくりフォーラム」を通じて、農福連携、園芸福祉活動を開始

野菜の苗の生産（ナス）

平成12年

平成12年から、障害者の受入れを開始

平成19年

NPO法人花と緑と健康のまちづくりフォーラムと連携し、障害者の自立支援に取り組む

園芸福祉士を中心に障害者の自立支援に取り組む

○ 代表者が日本園芸福祉普及協会の認定資格である園芸福祉士を取得し、園芸福祉活動の地域への普及や啓発、障害者の受入れに熱心に取り組む。

○ NPO法人花と緑と健康のまちづくりフォーラムと連携し、障害者の自立支援に取り組む。

アロエ各種

平成26年

平成24年から、農福連携の技術指導者「アグリジョブコーチ」を導入

アグリジョブコーチがほ場で指導

○ 近隣の福祉事業所から、知的・精神障害者、生活保護受給者など数名を受け入れ。

○ 花き鉢物の生産に携わる作業を福祉事業所に委託することで、年間を通した受け入れを体制を実現。

○ 農福連携の技術指導者「アグリジョブコーチ（愛知県認定）」がほ場で指導を行うことで、円滑な作業を実現。

○ 障害者のケガや病気の防止につながり、良い労働環境を実現。

令和2年

青パパイヤに関する専門サイトをオープンするなど、関連企業との連携による横展開を図る

障害者の受入れを拡大

○ 精神障害者１名をパート社員として雇用。

○令和３年、愛知県が実施する「愛知県版農業ジョブコーチ養成研修」の講師を担当。

花の生産（ペチュニア）

今後の展望

営利活動と社会貢献活動の両立

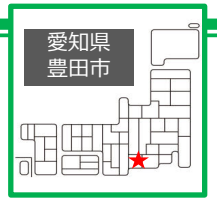
○ 社会貢献活動と営利活動の両立により、農場スタッフの“やりがい”と“達成感”を得ることにも繋がっている。

○ 今後も営利活動と社会貢献活動の両立を進める。

更新年度:R5

66 社会福祉法人 無門福祉会

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可



福祉事業者として、自然栽培で水稲や野菜の生産を行うほか、出荷調製、加工、販売まで全てを実施。手間のかかる自然栽培を行うことによって、障害者就労意欲の向上に繋がり、耕作面積が増加。

基本情報

- 所在地：愛知県豊田市
- 団体名：社会福祉法人　無門福祉会
- 選定表彰：第４回「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」優良事例選定（東海農政局）
- 主力商品：自然栽培による農産物（米、たまねぎ、きゅうり等）の他、菌床椎茸
- 取得認証等：ー

取組の概要

○ 現在7.7haの農地において、米、オクラ、にんじん、はくさい等約30品目の作物を無農薬・無肥料で自然栽培。また、養鶏農家で約300羽の飼育作業、菌床椎茸を年間15,000菌床栽培。障害者は、農作業全般のほか、出荷調製、加工、販売まで実施。

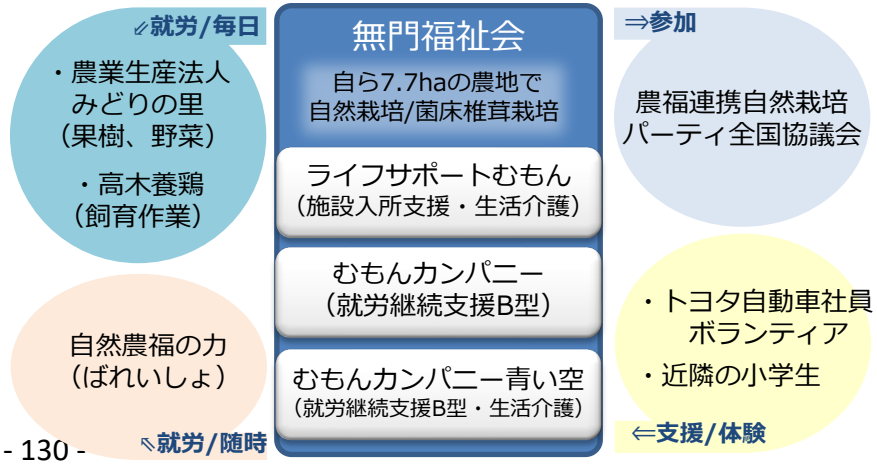
○ 開所当初は、野菜が売れず、職員・利用者ともに作業意欲が低かったが、平成26年に自然栽培に切り替えたことで就労意欲が向上。

○ 開所当初は、障害者には石拾いなどの単純作業を割り当てたが、飽きてしまうなどの様子が見られたため、その後、比較的難度の高い収穫や選別作業などにも従事。

いちごの虫取り作業

さつまいもの収穫作業

体制図



取組の成果

○ 農業技術の高さが評価され、平成26年からは、市内の農業法人から農作業の請負を開始。

○ 障害者が作業に習熟することにより、いちごポットの土詰めは、１日あたり100ポットから1,000ポットへと10倍の処理が可能になった。

○ 自然栽培への切り替えにより、農業に手間をかけることで就労意欲の向上につながり、自然栽培開始直前は0.1haほどだった耕作面積が、現在では7.7haまで増加。また、令和4年度の売上高は、３事業所合計で約6,600万円。

所在地▶愛知県豊田市高町東山7-43
連絡先▶TEL:0565-45-7883　E-mail:info@mumon-fukushi.net
ウェブサイト▶https://www.mumon-fukushi.net/

【取組のプロセス】

きっかけ

昭和63年の開所以来、農業に取り組んでいたものの、売上が伸び悩み、農業部門の廃止を検討する中で、自然栽培に取組はじめる

昭和63年

農福連携により農業に取り組むがうまくいかない

開所以来、農作業に取り組む

○ 昭和63年の開所以来、農作業に取り組む。

○ 開所当初は、野菜が売れず、職員・利用者ともに作業意欲が低下。

平成26年

自然栽培に切り替える

・休耕地を借り受け本格的に自然栽培を開始

・自然栽培農家との連携を開始

自然栽培に切り替え、魅力ある農業に変わりモチベーションアップ

○ 平成26年から、無肥料・無農薬の自然栽培に切り替え、おいしく安心な野菜栽培、環境に配慮した魅力ある農業となり、就労意欲が向上。耕作面積と売上高の増加に繋がり、経営にも効果を上げる。

○ 農業は作物によって様々な作業があり、共同作業を通じ、利用者と職員との関係性もよりフラットとなるなど、他の施設内作業にはない効果があると確信。

平成28年

自然栽培による農福連携を通じて荒廃農地の解消を目指す団体「農福連携自然栽培パーティ全国協議会」を設立

平成29年

福祉事業者自らが休耕地7.7haを耕作

○ 平成26年から、農作業の場として、市内の荒廃農地の再生を開始し、7.7haを福祉事業者自らが耕作。障害者が、農地を維持する役割を担う。

○ 令和６年１月現在は、知的障害者を中心とした施設利用者95名が、米と野菜の生産、加工を通年で実施。

令和6年

・農業ボランティアを企業に呼び掛け、トヨタ自動車社員ボランティアによる農作業がはじまる

・地元小学校と一緒にお米作りを始める

今後の展望

障害者が「地域につながる」ことが「地域をつなげる」ことになる

○ 地元の子どもたちに向けて、自然に触れながら食を楽しく学ぶ「こども体験農場」を毎月１回実施。

○ 自然栽培による農福連携を通じて荒廃農地の解消を目指す団体「農福連携自然栽培パーティ全国協議会」を通じて、障害者による自然栽培の農業を全国に広げていく。

無肥料・無農薬で
約30品目の野菜を栽培

いちごも無農薬で栽培

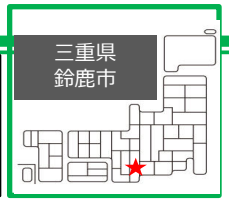
ボランティアの皆さんと
田植え作業

「こども体験農場」
パネルを用い作業説明

更新年度:R5

67 株式会社イシイナーセリー

視察受入れ：要相談　報道機関受入れ：要相談



障害者の継続雇用と植木産地における就労拡大を目的として、造園や緑化工事に欠かせない植物「タマリュウ」の定植、除草作業などを就労継続支援Ａ型事業所に年間を通じて委託。

基本情報

- 所在地：三重県鈴鹿市
- 団体名：株式会社 イシイナーセリー
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
  優秀賞
- 主力商品：タマリュウ（玉竜）
  ユリ科（キジカクシ科）
- 取得認証等：ー

タマリュウ
ひとすじ

取組の概要

○地域の社会福祉法人から草取りなどの軽作業で障害者を受け入れたことがきっかけで障害者を直接雇用。障害者の継続雇用と就労拡大を目的にNPO法人を設立し、就労継続支援Ａ型事業所きららの運営を開始。

○造園や緑化工事に欠かせないタマリュウの出荷量日本一の生産者として、農作業をきららに委託し、知的、精神、身体障害者の計11名がタマリュウの定植、除草作業などに従事。年間でマット約９万枚、約90万ポットを生産。

○大量生産には就労継続支援Ａ型事業所との連携が不可欠であり、色や葉丈など均一かつ顧客ニーズに細かく対応。

広々とした農場で、丁寧に除草

サービスエリアに設置した花壇

作業ごとに札を立てて、作業を見える化

体制図

取組の成果

取　組　実　績							
項　　目	単位	取組当初	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和５年度
利用者賃金	月額 円		83,269	92,634	96,600	98,895	12万円弱

○ 賃金は、他の利用者へのフォローや出勤率など、単なる枚数だけの評価にならない仕組みを取り入れており、自己肯定感を下げない工夫を行っている。

○ 作業の効率化と改善の取組を続けることで、生産性、品質が向上し、造園のプロから選ばれ続けている。

所在地▶三重県鈴鹿市住吉
ウェブサイト▶https：//www.best-tamaryu.com/

【取組のプロセス】

昭和46年

新規就農し、個人事業としてサツキなどの生産を開始

きっかけ　**平成12年頃に近隣の社会福祉法人から農作業を希望する障害者を紹介され、働く姿に可能性を感じたことがきっかけで取組を開始**

平成12年

障害のある人とともに地域と農業の明るい未来を創る

○ 平成23年に障害者の継続雇用と植木産地における就労拡大を目的とした特定非営利活動法人ベルプランツを設立し、同年に就労継続支援Ａ型事業所きららを開所。

○ 造園や緑化工事に欠かせない植物であるタマリュウの定植、除草作業などの農作業をA型事業所きららに委託。

平成23年

知的、精神、身体障害者、ひきこもりの状態にある者と農作業に取り組む

平成27年

労働環境、働きやすさの改善を進めるため、作業器具などにも工夫した。

特性、得意分野を活かした仕事の配置

○ 平成27年、個人事業から株式会社イシイナーセリーへ法人化。
経営方針は「最高品質のタマリュウ生産を通して、お客様に感動と笑顔を提供し、障害のある人とともに地域と農業の明るい未来を創る」。

○ 能力や性格を把握して、チーム編成や能力に合わせた作業の割り当てを行い、特性や日々の状態にあった作業を探ることで適材適所の配置を実施。

平成30年

伊勢志摩サミット開催記念事業受託

駒沢オリンピック公園　球技場屋根緑化への納品

高付加価値と働きがい

○ 作業の効率化・改善を重ね、造園のプロから選ばれる高品質な商品づくりにより平成30年には県内平均賃金月額より約32%高い賃金を実現。

○ 駒沢オリンピック公園 総合運動場 新屋内球技場の屋根緑化への納品の他、サービスエリアでは、花壇デザインから設置・管理・撤去に至るまでを職員と利用者が共に行ない、通常の農作業では味わえない目に見える仕事ならではの面白さを感じられたことで、出勤率が向上。

今後の展望

県内外へ、障害者も価値の高い造園施工を担えると、広く示すことができた

障害の有無に関係なく 新たな担い手とともに活躍できる産業

○ 植木農家と福祉事業者のマッチングで農福連携の輪を広げた施設外就労の取組を継続して実施。

○ 農業大学校の実習受け入れやひきこもりの状態にある者や生活困窮者へも門戸を広げ就労拡大を図り、農福連携の推進、地場産業の発展を目指していく。

聖火リレー出発点の
駒沢オリンピック公園の緑化

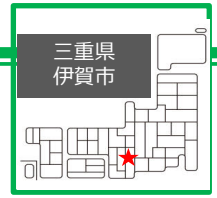
日本パラ水泳選手権大会にて
市松模様を表現

マットタイプを利用した造園施工の様子
トレーから外すだけで「緑のじゅうたん」が完成する。造園工費コスト削減だけでなく、障害の有無に関係なく作業ができるメリットもある。

更新年度:R5

68 遊士屋株式会社

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可



福祉施設と連携し、ウェルビーイング（肉体的、精神的、社会的にすべてが満たされた状態）な「生き直し」を支援する農業カリキュラムの場として確立させるとともに、著名ブランドなどで採用されるいちごの生産を実施。

基本情報

- 所在地：三重県伊賀市（伊賀農園）
- 団体名：遊士屋株式会社
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
  フレッシュ賞
- 主力商品：いちご
  完熟クラフト苺ＢＥＲＲＹ
  （自社ブランド）
- 取得認証等：ー

取組の概要

○ 連携する（一社）ワンネス財団が運営する施設を卒業した者（知的障害、発達障害、各種依存症、ひきこもりの状態にあった者などの生きづらさから回復した者）を一般就労の形で雇用。
○ ワンネス財団は福祉カリキュラムとして農園での作業を採用しており、週平均20名ほどが農園での作業を通し、他者と関わり合いながら、自身の抱える障害に向き合い、生き直しに向けて取り組んでいる。
○ 直販と輸出に注力した品質特化の栽培戦略を採用。自社ブランドとして「完熟クラフト苺BERRY」を立ち上げる。農園から個人宅への直送を行う他、著名ブランド・国内外のトップシェフらから採用。

いちごの栽培

ハケを使用して丁寧に選果

多様な年齢・背景を持つメンバーが働く

体制図

取組の成果

○ 消費者の声が直接届くことや、有名な店舗などで採用されることで、障害者の生き甲斐に繋がっている。

○ 地域のお祭りなどのイベントに出店し、冷凍いちごスムージーや、ホットワインなどの提供を実施することで地域の活性化に貢献。

○ 地域の荒廃農地、遊休農地を活用し、令和２年～３年は、自社サイト経由だけで1,800件を超える消費者へいちごを届け、デジタル販売の活用が注目されGoogle社のテレビ広告に採用。

所在地▶三重県伊賀市法花3605
連絡先▶TEL：080-1618-5059　E-Mail：info@berryjapan.com
ウェブサイト▶https：//berryjapan.com

【取組のプロセス】

きっかけ

様々な生きづらさによって、一度は人生やキャリアに立ち止まってしまった方が、再び生きがいを持って「生き直すことのできる場」を作りたいという思いから、肉体的、精神的、そして社会的にも、すべてが満たされた状態を目指す農園として設立

平成29年

強みを活かせるよう作業分野を分担し、それぞれに責任範囲を持つような作業設計を行う

福利厚生として、スタッフの心身の健康のため手作りの食事を振る舞い、チームの結束が高まる

再び生きがいを持って「生き直すことのできる場を作りたい」

○ 平成29年10月、農福連携の実現を目指し三重県伊賀市の荒廃農地を賃借し、いちごのテスト栽培を開始。

○ 農業と福祉を掛け合わせるだけでなく、「世界一だと誇れる仕事をすること」を掲げ、世界中に自分たちの作ったいちごを届けることを事業の根幹に据えて環境整備、仕組みづくりを行う。

BERRYの苺が
人気パティスリーに採用

令和元年

個人向け直販、プロ向け直販、輸出等、売上を分散したことで、コロナ禍でも経営資源を最適に分配する体制が構築できた

自社ブランド「完熟クラフト苺ＢＥＲＲＹ」を発表

○ 令和元年12月、高級高品質の自社ブランドとして、「ＢＥＲＲＹ」を立ち上げ、個人向けのデジタル販売を開始。

○ 国内直接販売とタイ・バンコク・シンガポール・台湾・香港などへ贈答品として輸出を開始。

○ 英国王室御用達の陶磁器ブランド創設記念キャンペーンやミシュラン掲載レストランで採用となる。

BERRY使用のケーキ

令和2年

家族を畑に招いたり、母の日に会社経費で各自の母親へいちごを贈るなど家族とのコミュニケーションを重視

地域とともにある農園

○ 地元在住のスタッフを雇用することで障害者等への理解を広げ、高齢化集落で土地を借り、若い人材を増やしている。

○ 地域と障害者のコミュニケーションを増やすため、令和２年後半から地域イベントへ積極的に出店。

○ 地域住民との対話など様々なゲストを招き、交流することで社会性や自己肯定感が育まれている。

○ 育苗施設、作付け等を行う農地は地域の荒廃農地や遊休農地を活用。

今後の展望

作付け面積55a、育苗施設などの150aは全て地域の荒廃農地、遊休農地を有効利用

地球の未来に繋がる技術革新に取り組む

○ 農福連携の枠組みにとらわれず、気候変動後の時代を見据え、環境負荷を限りなく減らした持続可能な栽培方法の確立という目標を定めて、当社農園敷地内に研究所を建設し、CULTIVERA社と共同で実証研究を開始。

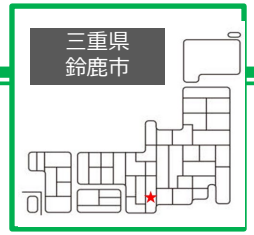
○ より大きなビジョンと課せられた使命が、障害者等のモチベーションアップへ繋がる。

一人一人が主役として働く

更新年度:R5

69 社会福祉法人 朋友 就労継続支援B型事業所 Cotti菜（こっちな）

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可



平成22年に就労継続支援事業所を開設し農業に参入するとともに、平成25年にはステップアップカフェ開設により飲食事業に取り組む。障害者が好きな作業、得意な作業を選択することで作業の能率を上げ、高収入が得られる組織作りに取り組む。

基本情報

- 所在地：三重県鈴鹿市
- 団体名：社会福祉法人朋友
- 選定表彰：
  - ・ノウフク・アワード2022準グランプリ「人を耕す」
  - ・第10回「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」東海農政局選定
- 主力商品：水耕栽培（リーフレタス、水菜、小松菜等）、露地野菜（大根、里芋等）、弁当、パン、総菜
- 取得認証等：認定農業者、ノウフクJAS

「ひびこれ弁当」
自社農場の農産物を使った農福弁当

取組の概要

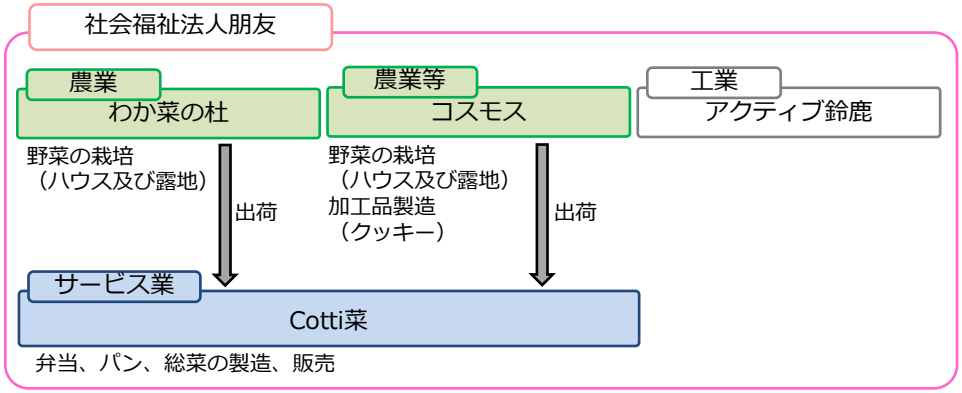
○農業部門は、ハウスの水耕栽培を中心に露地栽培でも野菜を生産。露地栽培の農地は97ａ（平成30年）から153ａ（令和３年）に増加。
○飲食部門は、平成25年にステップアップカフェを開設、平成27年にはCotti菜Deliを開設し弁当作りで障害者雇用を開始。
○令和４年に弁当・パン・総菜の製造販売とイートインコーナーを併設した新店舗を開設。売上は2,149万円（平成30年）から3,486万円（令和４年）に増加。

わか菜の杜での
水耕栽培

令和４年４月開店の新店舗
「Cotti菜」

「Cotti菜」で作った
パンの販売

体制図



取組の成果

○就労継続支援B型事業所「わか菜の杜」及び「Cotti菜」を合わせた令和４年度の平均工賃は42,685円を達成（令和４年全国平均は17,031円）
○利用者数は10名（令和４年３月）から17名（令和５年３月）に増加。
○令和４年には、就労継続支援B型事業所「コスモス」の経営も担い、障害者雇用及び農業生産拡大に取り組んでいる。

所在地▶三重県鈴鹿市三日市南三丁目18-23
連絡先▶TEL: 059-389-7789
E-mail:cottina@active-suzuka.com
ウェブサイト▶https://www.active-suzuka.com

【取組のプロセス】

きっかけ

製造業で障害者を雇用する中で、障害者もそれぞれ就きたい仕事があることを知り、勉強会を踏まえ、農業分野での障害者の活躍の場を作り出せる確信を得たことから農福連携の取組を開始

平成12年

知的障害・精神障害者を中心に加工作業に取り組む

障害のある方の社会参画を推進

○ 平成18年に自動車用部品製造の事業所を設立。障害者を雇用する中で、障害者もそれぞれ就きたい仕事があることを知る。

○農業とレストランの分野で障害者が活躍できる場所を作れないか、勉強会を実施。

ノウフクJAS認定野菜

平成22年

２つ目の柱となる農業分野「わか菜の杜」を立ち上げる

平成26年

３つ目の柱となる飲食分野Cotti菜Deliを立ち上げる。

令和２年12月ノウフクJAS取得

新たな事業の展開

○ 平成22年のリーマンショックで製造業が停滞したため、障害者が働く場の創出に向け、勉強会で障害者の活躍に確信を得ていた農業分野に進出。

○ 平成25年に三重県の公募に申請し、障害者が働くステップアップカフェCotti菜を開設。平成27年に鈴鹿市でCotti菜Deliを開設し、弁当作りで障害者を雇用。

○ 令和２年12月にノウフクJASを取得。

Cotti菜での弁当作り

新店舗設立に向けた経営支援

令和4年

新店舗Cotti菜を設立

新店舗「Cotti菜」を設立

○ 令和４年に Cotti菜Deliを移設する形で新店舗を開設。

○ 新店舗では、障害者の就労を増やすとともに従来から働く障害者から希望があったパンや総菜を調理・販売するスペース及びイートインスペースを設け、店舗内で弁当やパン等を食べられるようにした。

○ 店舗内の販売スペースには、わか菜の杜の野菜や三重県内の農福連携商品販売コーナーを設け、農福連携事業の情報発信基地にもなっている。

Cotti菜での弁当及び野菜の販売コーナー

今後の展望

障害を持つ子供たちの働く将来を考える場の提供

○ 隣接する放課後等デイサービスに通う障害を持った子供たちに、障害者が働く職場の見学及び就労体験の受入れを行い、早くから働くことを知り将来を考える機会を提供。

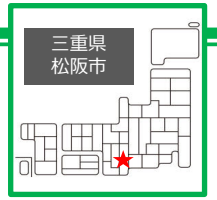
○ 障害に対する悩みや不安を話し合ったり、福祉制度の勉強会等の活動を行う。

Cotti菜の三重県内農福連携商品販売コーナー（上段）

更新年度:R5

70 社会福祉法人まつさか福祉会 多機能型事業所　八重田ファーム

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可



ハウスでのいちご栽培を中心とした農作業を通年で実施。県内の障害福祉サービス事業所で初めて、いちご生産でASIA GAP認証を取得。高品質ないちごを生産することで、県農業の担い手として期待。

基本情報

- 所在地：三重県松阪市
- 団体名：社会福祉法人 まつさか福祉会
- 選定表彰：ノウフク・アワード2023 優秀賞
- 主力商品：いちご（ASIA GAP認証）
- 取得認証等：ASIA GAP認証

ASIA GAP
認証登録証明書

取組の概要

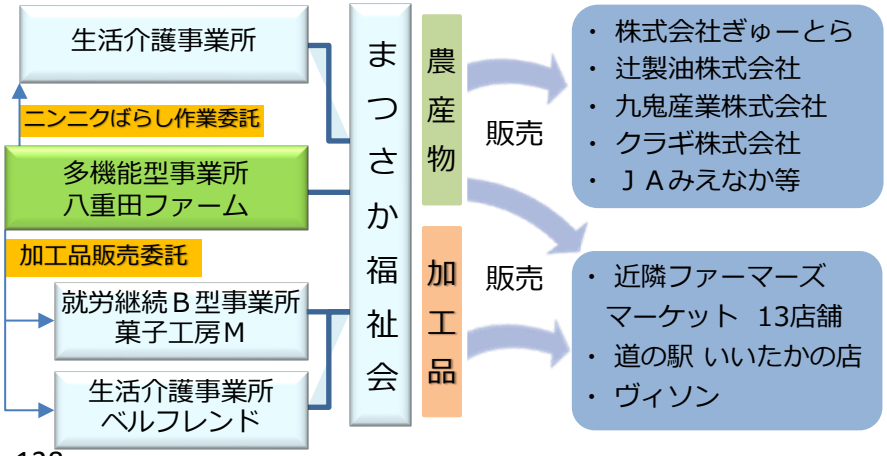
○ 知的障害者、精神障害者の16名で農作業・加工作業に取り組む。
○ ハウス35aでいちごを生産。約２.5haの露地でナバナ、金ゴマ、ニンニク、カボチャ等を生産。いちごジャム等への加工にも取り組む。
○ 離農した農業者から借り受けたいちごハウスに、平成25年度「『農』のある暮らしづくり交付金」(農林水産省)の補助を受け、高設栽培システムを導入し、持続力がない障害者が作業しやすくしている。
○ 農薬散布のため、虫の写真などをハウス内に貼ることで、利用者に害虫について知ってもらうとともに、品質管理への意識向上を図っている。

主力のASIA GAP認証いちご

ナバナの収穫作業

いちごの収穫作業

体制図



取組の成果

○ 平成30年度には、三重県内の障害福祉サービス事業所で初めて、いちご生産でASIA GAP認証を取得。
○ いちごの品質が認められ、平成30年には国際線機内食にも採用。
○ いちご導入当時より利用者ができる作業が増え、収穫作業にも従事。
○ 農地面積が25a（平成30年度）から３ha（令和５年度）に増加。県内大手スーパーと直接取引を開始。
○ 就労継続支援B型事業所の利用者の平均工賃月額は取組当初の約25,000円（平成27年度）から約38,000円（令和５年度）に増加。生活介護利用者に対しても13,000円から15,000円を支給（令和５年度）。

所在地▶三重県松阪市八重田町31-6
連絡先▶TEL:0598-63-1551　E-mail:mu-yaeda@mctv.ne.jp
ウェブサイト▶https://mukaiyaebell.or.jp/office/yaeda.html

【取組のプロセス】

荒廃農地の増加で農地の借入が可能になった

平成16年

きっかけ

利用者と屋外での作業がしたいという思いから、法人理事の農地等を借り、25aの農地からスタート

地域の理解により拠点を整備

平成18年

隣町のいちご農家が減ってきており、空きハウスを借用

いちご栽培を本格化

○ 離農したいちご農家から、ハウスを借り受けて栽培を開始。

○ 八重田町・隣町との交流（夕涼み会・収穫祭に参加）も始まる。

平成20年

『農』のある暮らしづくり交付金（農林水産省）を受ける

35ａのハウスでいちごを栽培

いちごハウスの倍増

○ 地域農家にいちごの品質といちご栽培の技術が認められる。

○ 平成25年～令和５年にかけ４軒の農家のハウスを借入。

○ 収入はいちご栽培を始める前と比べ４倍以上となった。

○ 県内の医療少年院の在院実習生を受け入れて、さらなる農福連携への取組を強化。

平成25年

高齢化の波があり、近隣ハウスを借用し規模拡大

平成26年

紅はるかを焼き芋にし、いちご、ブルーベリー、キウイと組み合わせた
こだわりジャム

ヤマト財団「ステップアップ」助成金を受ける

令和2年

農産物の加工製造を開始

○ 衛生面に配慮できるメンバーにより、規格外のいちご等を使ってジャムを製造。

○ 地元業者との連携や、子供会の芋ほり用のさつまいもを無償で提供する等の地域貢献も行っている。

いちごジャム作りをスタート

ドライフルーツ
左：いちご、右：かき

今後の展望

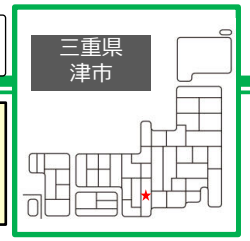
加工作業の強化

○ 色々な作物を出荷目的ではなく練習目的で栽培しており、生産性・採算性・作業性を考えて方針を決めようとしている段階。今後は農作業が苦手な人への職種の選択肢を増やすため、加工作業を強化していく。

更新年度：R5

71 一般社団法人　三重県障がい者就農促進協議会

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可



平成27年から農業ジョブトレーナの養成を中心に活動すると共に、障害者による農業体験の実施、特別支援学校との連携、障害者が生産した農産物を用いた商品開発など、幅広い取組を展開し、福祉事業所や農業経営体をサポートを実施。

基本情報

- 所在地：三重県津市
- 団体名：一般社団法人
  三重県障がい者就農促進協議会
- 選定表彰：
  - ・第8回「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」
    農林水産省 グランプリ
- イベント
  - ・農業ジョブトレーナ養成講座、スキルアップ研修等の開催
  - ・ノウフクマルシェの定期開催
  - ・県内大学のインターンシップ受け入れ（随時）

取組の概要

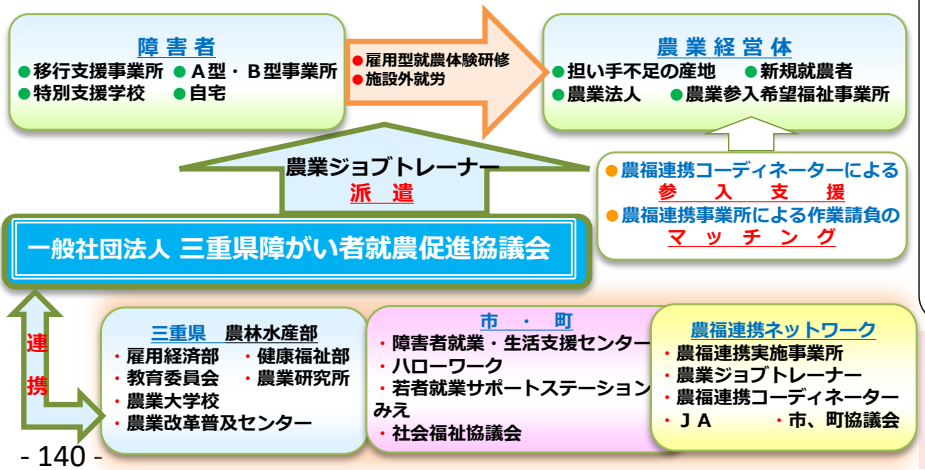
○ 三重県独自の「農業ジョブトレーナー」の養成講座を開催しており、平成27年度から令和５年度で547名を養成。農福連携の理解者を増やし、福祉事業所や農業経営体及び関係機関等の担当者を育成を図る。
○ 特別支援学校との連携では、農業ジョブトレーナーを作業学習(農業）やインターンシップの支援に派遣するなどして、農業経営体を進路先として選択する生徒もいる。
○ JA三重中央会と連携し、施設外就労のマッチングに取組、新たに農福連携に取り組む農業経営体や福祉事業所を支援している。
○ 「ノウフクサポートセンターみえ」を開設し、農福、林福、水福連携のワンストップ窓口として相談や情報提供が的確に行えるよう体制を整備。

農業ジョブトレーナー養成講座

JA津安芸のキャベツの収穫（施設外就労）

特別支援学校くろしお学園
地域伝統野菜高菜の収穫

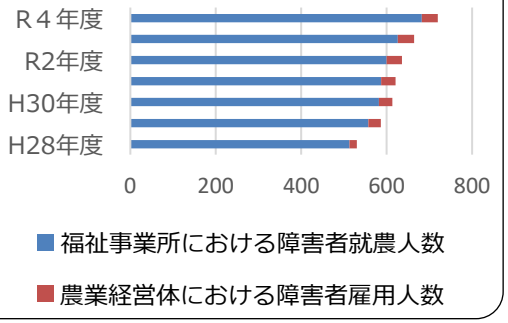
体制図



取組の成果

○ノウフクマルシェの定期開催19回（令和５年度）
○ノウフクＪＡＳ認定を取得した県内の４福祉事業所を中心に、ノウフクJASフェアを開催
○新商品開発支援（18件）新作付技術支援（15件）を実施。

農業分野で活躍する障害者数



所在地▶三重県津市桜橋２丁目142 三重県教育会館 １Ｆ
連絡先▶TEL:059-253-4187　E-mail: mieshuno@dune.ocn.ne.jp
ウェブサイト▶https://mieshuno.net

【取組のプロセス】

きっかけ

農福連携を推進する中で、農業経営体からは「どう接していいかわからない」、障害者からは「農業の経験がないから不安」などの声があり、双方がなかなか踏み出せないでいる現状を痛感し、双方の不安を払拭するには、両者をマッチングし、就農に向けサポートする人材が必要と考え、農業ジョブトレーナー養成講座をスタート

平成27年

・平成27年10月１日設立
・雇用型就労体験研修実施
・キックオフイベント開催
・障害者就農支援
　スキルアップ研修開催

農業ジョブトレーナーの養成と障害者の就農支援

○ 農業経営者と就農を希望する障害者（家族も含む）の双方に関わり、障害者がより働きやすくなるよう支援・指導する「農業ジョブトレーナー」の養成講座を開催。
○ 平成27年度から令和４年度末で547名を養成。農業ジョブトレーナーは、初めて農業に携わる障害者や、施設外就労に初めて取り組む福祉事業所及び農業経営体のサポーターとして、また、農福連携に取り組む福祉事業所や農業経営体及び関係機関等の担当者として活躍。

多様な就労作業支援

平成28年

・農業ジョブトレーナー
　養成講座開催
・農福連携マルシェの開催
・農福連携全国サミットin
　みえ開催

特別支援学校との連携　～農業が進路選択の一つに～

○ 特別支援学校の職場体験実習に農業ジョブトレーナーを派遣し、生徒と農業経営者の双方をサポート就職後も定着に向け、定期的に支援を実施。
○ 県教育委員会及び特別支援学校の協力のもと農業教育プログラムを作成（令和２年度）。作業学習等に取り組む特別支援学校では、農業経営体を進路先として選択する生徒もいる。

石ころやコンクリートの破片を取り除き
実習園として整備

平成29年

・特別支援学校との連携
開始
・施設外就労への支援

・新商品開発の支援
・新作物の作付指導支援
・ノウフクマルシェの開
催

ノウフクマルシェの開催・商品開発・販路拡大の取組

○ 百貨店・駅ビル・ファーマーズマーケットで定期的にノウフクマルシェを開催。ファンが定着してきており、販路拡大につながっている。
○ 生産物の加工品の開発や新たな作物の栽培支援を行いノウフク・ブランドの確立を目指している。

令和2年

・農福連携ワンストッ
プ窓口設置
・JA三重中央会との連
携

施設外就労の拡大とワンストップ窓口の充実

○ JA三重中央会と連携し、施設外就労のマッチングに取り組み、農業に参入する福祉事業所を支援。
○ 農福連携に関する相談窓口を東紀州地域にも設定し、いつでもどこでも相談できる体制を整備。
○ 農業ジョブトレーナー養成講座やスキルアップ研修などにおいて、オンライン参加の環境を整備。

生産物の加工品開発支援

令和4年

・ノウフクサポートセン
ターみえの開設
・林福連携、水福連携の
取組を開始

「ノウフクサポートセンターみえ」開設　令和４年８月

○ 農業に加え林業、水産業との連携も視野に農・林・水福連携に関する相談や情報提供が的確にできるよう「ノウフクサポートセンターみえ」を開設し関係機関との連携を進めている。

ノウフクJASフェアの開
催、インターンシップの
受け入れ

県内大学のインターンシップの受け入れ開始

○ 福祉事業所におけるインターンシップ実施のサポートおよび学生ボランティアの受け入れ。

農業ジョブトレーナーの派遣

今後の展望

企業・関係機関との連携の推進　～ノウフクパートナー～の募集

○ 農福連携の取組の趣旨に賛同し、作業委託、栽培委託、資材の提供、活動場所の提供、技術指導などともに活動していただく企業、関係機関との連携を進めていく。

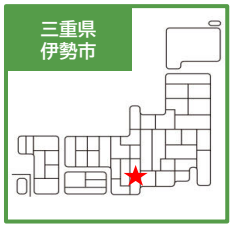
更新年度:R5

72 株式会社　ケアプロフェッショナル（三重県伊勢市）

2024チャレンジ賞

放課後等デイサービスを運営する中で、障害者が社会参画できる場として農業参入。ワイン専用欧州ぶどうの栽培からワイン製造まで全て自社で実施し、国際交流にも発展。

福祉事業所



基本情報

設立：H25年/農福連携取組開始：H29年

概要

主力商品

（農作物）醸造用ぶどう、さつまいも、ブルーベリー
（加工品）ワイン、干し芋、ブルーベリージャム

体制図

株式会社ケアプロフェッショナル
- ・高齢者ﾘﾊﾋﾞﾘ施設（みんなの家　三重県下6事業所）
- ・障害児ﾘﾊﾋﾞﾘ施設（放課後の家　三重県下4事業所）
- ・就労継続支援B型施設（ｼﾞｮﾌﾞｽﾀｼﾞｵ伊勢）
- ・伊勢ﾜｲﾝ（株）（ｼﾞｮﾌﾞｽﾀｼﾞｵ伊勢の完全子会社）
  ※伊勢ﾜｲﾝ（株）：国税庁よりﾜｲﾝ醸造免許取得（酒販含む）
- ・伊勢ﾜｲﾅﾘｰ（株）（ｼﾞｮﾌﾞｽﾀｼﾞｵ伊勢の完全子会社）
  ※伊勢ﾜｲﾅﾘｰ（株）：三重県認定事業者に指定

080-4814-8395/iwasaki@care-pro.co.jp
http://care-pro.co.jp/

きっかけ

H29年

「人よりも遅くてもいい、少しずつできる事が増え、達成感や生きがいを感じられる働き場が障害者に必要」と考え、農福連携によるワイン作りを開始。

取組

人を耕す

- 製造するワインやジャム等はすべて自社開発製品であり、原材料もすべて自社栽培しているため、中間マージンを削減でき、高い利益率は工賃向上に寄与。
- 一般就労の準備としてビジネス研修やソーシャルスキルトレーニング（SST）を実施し、障害者の積極的な学びの機会を創出。

地域を耕す

- ワインぶどう栽培はマニュアル化・ルーティーン化しやすく、健常者と障害者の受け持つ仕事の役割分担がしやすいため、生産性の向上を実現。
- 1haの荒廃農地を有効活用し、ワインぶどうという新たな農産物を栽培する挑戦は、地域の農林水産業の刺激となり、その発展に寄与。

未来を耕す

- ワインぶどう栽培・ワイン醸造の期間は3月～11月のため、さつまいも収穫、干し芋加工も組み合わせて年間を通じた仕事のサイクルを設計。
- 真珠貝の貝殻パウダーや廃棄貝肉を譲ってもらい発酵させ、たい肥化し、ほ場に散布することで、地域企業と連携した「ごみゼロ計画」に貢献。

成果

平均工賃月額	障害者数	作付け本数	農地面積
12,000円（R3） →18,000円（R5）	2人（H29） →11人（R5）	120本（H29） →4, 100本（R5）	0.08ha（H29） →1ha（R5）

- 農福連携がきっかけで伊勢市とワイン発祥の地ジョージアとの交流に発展。
- すべて自社栽培・自社製造のため、個々の持つ障害特性に応じて仕事を選択でき、幅広い障害者の活躍の場と能力開発の機会を創出。
- ワインぶどう栽培は新聞等で「農福連携による初の純伊勢産ワイン」として取り上げられ、農業者から農福連携の相談を多数受けるなど、農福連携の輪が拡大。

視察受入れ：可 / 報道機関受入れ：可

更新年度：R7.1